Cyber Disaster Recovery Cloud

24.03

クイックスタートガイド

リビジョン:2024/04/10

目次

Hyper-VによってPCにCyber Disaster Recovery Cloudを設定する方法

Cyber Disaster Recovery Cloudメイン機能をテストするためにサーバーを所有する必要はありません。簡単にCyber Disaster Recovery CloudサービスをPCに設定でき、その機能を評価できます。

前提条件:

- Cyber Protect Cloudにカスタマー管理者アカウントを有しています。
- PCのオペレーティングシステムは、Windows 10 Pro、Windows 10 Enterprise、Windows 10 Educationのいずれかでなければなりません。

Cyber Disaster Recovery CloudサービスをPCに配置するには、次の手順を実行します。

1. PC上のHyper-Vをアクティブ化します。
2. テスト用のソースマシンとして使用する仮想マシン（VM）を作成します。
3. VPNアプライアンスをPCに配置します。

ステップ1PC上のHyper-Vサービスをアクティブ化し、OSイメージを準備します。

1. PC上のHyper-Vサービスをアクティブ化します。Microsoft Webサイトの指示に従います。
2. VMにインストールするためのOSイメージをダウンロードします。例えば、ubuntu-18.04.2-desktop-amd64.isoをUbuntuの公式Webサイトからダウンロードします。

ステップ2バックアップ対象のソースマシンとなる仮想マシンを作成します。

1. Hyper-Vマネージャを開き、バックアップを行いCyber Disaster Recovery Cloudサービスのテストに使用する仮想マシンを作成します。
   a. ホストを右クリックして、**[新規]** > **[仮想マシン]** の順に選択します。**起動メモリ**は少なくとも4096MB、そして**接続**は**デフォルト切り替え**である必要があることを念頭に置き、ウィザードのステップに従います。
   b. 新しく作成されたVMを実行し、それに接続し、OSインストールを開始します。
2. 新たに作成した仮想マシンに保護エージェントをインストールします。
   a. 仮想マシン上でブラウザを開きます。
   b. Cyber Protectコンソールに顧客の管理者としてログインします。
   c. **[デバイス]** セクションで、**[追加]** をクリックして仮想マシンを追加し、Linuxサーバーの保護エージェントを選択します。これで、保護エージェントが仮想マシンにダウンロードされます。
   d. コンソールを開き、まず付加的なパッケージをインストールします。次のコマンドを使用:

```
sudo apt-get install rpm gcc make -y
```

a. **[ダウンロード]** フォルダを開き、保護エージェントのインストールファイルを実行可能にするよう許可を変更してから、このファイルを実行します。

```
cd Downloads
```

```
sudo chmod +x Cyber_Protection_Agent_for_Linux_x86_64.bin
```

```
sudo ./Cyber_Protection_Agent_for_Linux_x86_64.bin
```

a. インストールウィザードの手順に従います。最後の手順で、[**登録情報を表示**] を選択します。リンクがブラウザに表示され、Cyber Protectコンソールにマシンを登録するときに指定する登録コードが表示されます。
b. これで仮想マシンがCyber Protectコンソールに登録されます。保護計画およびマシン全体のバックアップを作成します。このバックアップはあとで復元サーバーを作成するために使用します。

ステップ3VPNアプライアンスをPCに配置します。

VPNアプライアンスをPCに配置するには、以下を行ないます。

1. PCで、Cyber Protectコンソールに顧客の管理者としてログインします。
2. **[Disaster Recovery]** > **[接続]** の順に移動し、**[設定]** をクリックします。接続設定ウィザードが開きます。
3. **[サイト間接続]** を選択し、**[開始]** をクリックします。
   システムはクラウドに接続ゲートウェイを展開し始めますが、これには時間がかかります。一方、次のステップに進むことができます。
4. **[ダウンロードとデプロイ]** をクリックします。Hyper-V用のVPNアプライアンス（.vhdファイル）のあるアーカイブをダウンロードし、アーカイブを解凍してから、ローカル環境に展開します。
   a. Hyper-Vマネージャを開き、ホストを右クリックしてから、**[新規]** > **[仮想マシン]** の順に選択します。
   b. VMを説明する名前（たとえば、VPNアプライアンスVM）を指定します。
   c. **接続**は**デフォルト切り替え**に設定する必要があることを念頭に置き、ウィザードのステップに従います。
   d. **仮想ハードディスクに接続**手順で、**既存の仮想ハードディスクを使用する**オプションを選択します。ダウンロードしたVPNアプライアンスファイルを選択します。
   e. VMの作成を完了します。
5. アプライアンスを本番ネットワークに接続します。
6. VPNアプライアンスVMを実行し接続します。
7. アプライアンスが起動し、ログインプロンプトが表示されたら、以下の資格情報を使用してアプライアンスにログインします。
   ユーザー名: admin
   パスワード: admin
8. 以下のような開始ページが表示されます:

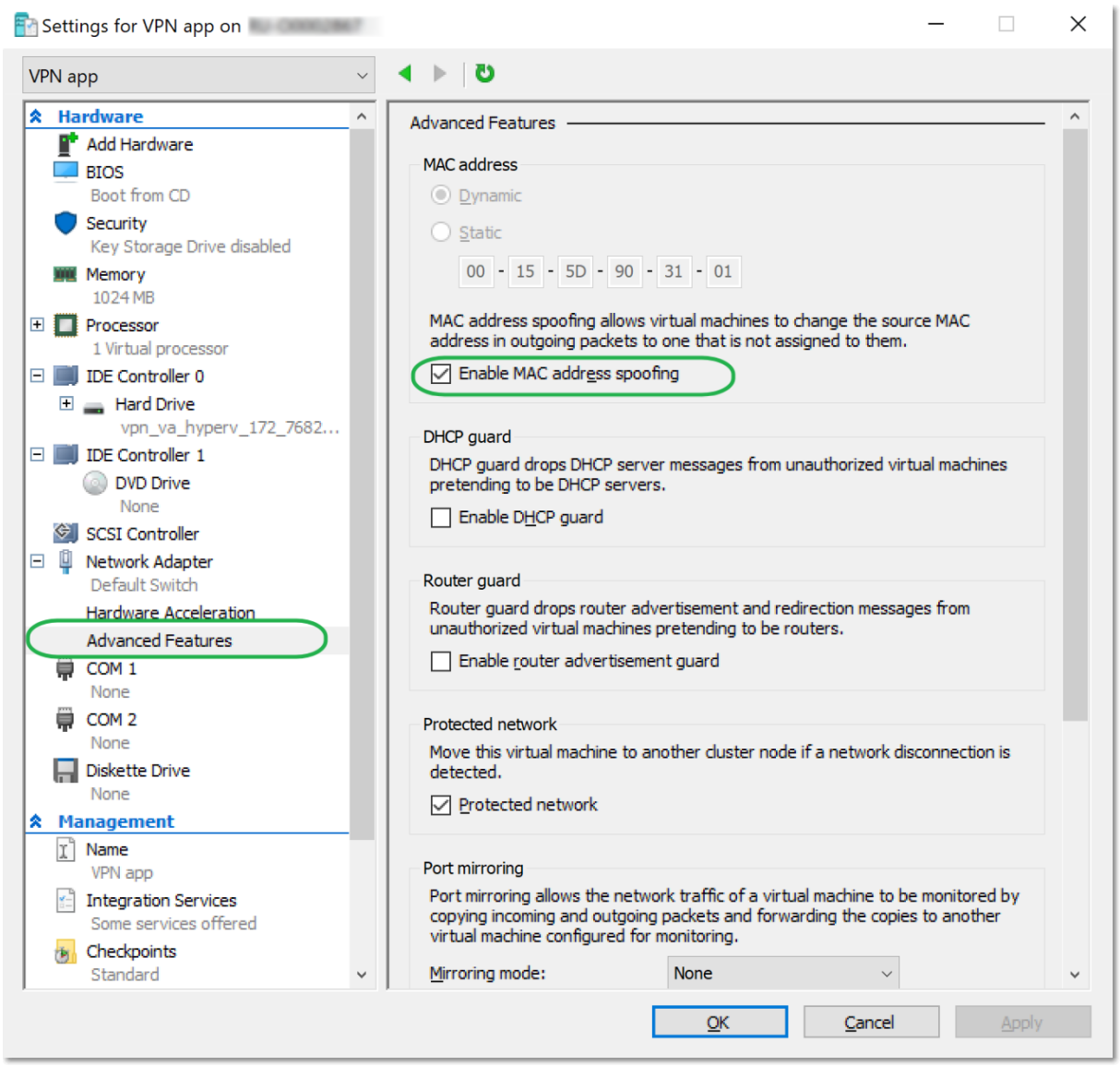
IPアドレス、**デフォルトゲートウェイ**、そして**優先DNSサーバー**の設定が適切で正しいことを確認します。注意:表の左側にある**インターネット**および**ゲートウェイ**の設定は、アプライアンスを正しく登録するために**利用可能**である必要があります。それ以外の場合、登録を進める前にデフォルトゲートウェイとDNSの可用性設定を確認するか、IPアドレスを手動で設定してください。

9. メニューから **[登録]** を選択し、**[実行]** をクリックします。
10. Cyber ProtectionサービスのURLアドレスを入力するように求められます。Cyber Protectコンソールにアクセスする際に使用するURLと同じものを入力します。

11. Cyber Protectコンソールの顧客の管理者資格情報を指定します。

注意
アカウントに二要素認証が設定されている場合、TOTPコードの入力も求められます。二要素認証が有効になっているもののアカウントに設定されていない場合、VPNアプライアンスを登録することはできません。まず、Cyber Protectコンソールのログインページへ移動し、アカウントのための二要素認証設定を完了する必要があります。二要素認証の詳細については、**カスタマー管理者ガイド**をご覧ください。

12. 設定を確認するために**Y**を入力し、登録プロセスを開始します。
13. 登録プロセスが成功すると、Cyber ProtectコンソールにVPNアプライアンスが表示されます。
14. 無差別モードを有効にし、ネットワークレプリケーション機能が正しく有効になっていることを確認します。
    a. Hyper-Vマネージャを開きます。
    b. VPNアプライアンスVMを右クリックし、**[設定]** を選択します。
    c. **[ネットワークアダプタ]** > **[Advanced Features（高度な機能）]** セクションで、**[Enable MAC address spoofing（MACアドレスなりすまし有効ネットワーク）]** オプションを選択します。



ローカルサイトとクラウド復元サイト間の安全なサイト間VPN接続が設定されました。これで、ローカルのマシン用の復元サーバーを作成し、フェールオーバーとフェールバックがどのように機能するかをチェックできます。詳細については、**Cyber Disaster Recovery Cloud管理者ガイド**を参照してください。